

東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会
第24回議事要旨(案)

1. 開催日時 平成24年7月26日(木) 13:00~15:00
2. 開催場所 ホテルイースト東京3階 東陽の間
3. 出席者 中杉委員長、岩崎委員、木下委員、榎本委員、小嶋委員、堀田委員、
内山委員(竹内委員代理)、山根委員、土屋委員
4. 議事(公開)

議題1 今後のPCB廃棄物の適正処理推進について

資料1に基づき環境省より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○特措法の期限内処理が難しく延長する必要がある。できるだけ延ばさない大筋の方向が示され、今後は、それを更に短縮するために具体的な検討していくとのこと。(委員長)

○試案では5事業所中で東京が一番遅い。車載トランスを新幹線が通る地域で広域的分担は理解できるが、同じ年度で終了させるべき。なぜ、東京が豊田を分担し平成35年度になるのか。大型トランスに時間がかかるとのことだが、車載を処理しなくても物理的にかかるのか。(委員)

⇒環境省検討委員会でも、なぜ東京と北海道だけが遅れるのか申し上げた。(委員長)

⇒他の得意能力を活用する場合、移動先を遅らせないのが原則。豊田から車載トランスを持ってくることで東京が延びることはない。東京は大型トランスが平成49年までかかり、それを短縮する中で、ラインの空いている部分の一部を使い車載を処理できないかと考えている。また、できれば揃えた方が良いのは同じで良く分かりますが、物理的にそうした場合に事業者の御負担になってもいけない。何が一番ベターか、これから関係自治体も含め議論し、専門家のご検証もいただきたい。(環境省)

○大型トランスは東京が多いと思うが、これを他の事業所で処理することは現時点での考えで可能か、それとも持っていくのは無理があるのか。(委員)

⇒基本的にどの事業所も大型トランスが一番ネックで最後になる。大型が早く終わり、小型やコンデンサが残る事業所があれば考えたいが、なかなか難しい面があると思う。(環境省)

○当初の原則は各事業所自区内での処理。東京の能力が出てない、他よりも遅れている原因究明がポイントだが、全体的には他に持っていく、あるいは他から持ってくる議論もある。東京は安定器を始めたが、うまく動かず、今は止まっている。全体を考えて出来るだけ不公平感がないような説明を環境省とJESCOにお願いしてある。(委員長)

○「保管場所での適正な保管等」の中、全国9万か所で保管し、その中で事業所の廃止・売却等でPCBの紛失例とある。現在の保管状況をしっかり把握しないと、もしかしたら自分が住んでいる隣の工場ですら土の中に埋め、そのままもあり得る。処理遅れによるのも事実だが、保管状況や漏洩がないか等、環境省は出先の機関も使いしかり立入検査をやってもらいたい。(委員)

⇒環境汚染の観点で一番な大事な部分。資料の中に「都道府県市の保管事業者への指導の徹底」及び「立入検査の計画的・効果的な実施等」があり、特措法で保管事業者は毎年、都道

府県や市に所有台数や漏洩の状況を届け、県や市は、それが本当か立入検査で確認する仕組みになっている。施設の立地地元は良いが、一部の地域では立入検査が十分でないところもあり、計画的な実施を指導している。また届出状況等は全ての都道府県事務所に備え付け、だれでも閲覧でき、やってない場合はきちんと指導する仕組みになっている。ただ、実際に起きており、環境省としても引き続き、漏洩防止対策をしっかりとやって行きたい。(環境省)

○保管データには変動がある。平成35年や40年への延長は良いが、新たに見つかるものやトラブルに対し、ある程度の余裕、大丈夫だという年数で見込んでおくべき、また延ばすということになってはいけない。また各事業所の処理方法が異なり、それぞれの特徴や向き、不向きがある。早く処理するため、事業所間の連携がこれからは必要になる。(委員)

○別添1で、平成23年度実績はいつ分かるのか。また「処理対象物量は推計中」としているが、大きく変動する可能性があるのか。次に、首都直下地震、東海・東南海・南海3連動地震とかの発生が危惧されているが、震災時の事業継続計画は策定済みか。(委員)

⇒平成23年度実績は纏りつつあり、詳細な検討ではこのデータを踏まえ議論をしたい。また一部自治体で対象物の掘り起こし調査を始めており、小さいものでまだ出てないものもあるが、大きいものはほとんど大企業のもので、全体に大きな影響はないと思う。震災対策については、最初から耐震構造になっているが、更にどういったリスクがあるかJESCOで再確認し、例えば緊急遮断弁の増設とか、対策の検討をもう一度やっている。(環境省)

○震災対策は、前回か前々回の委員会でも早急に検討するよう申し上げた。今回も踏まえて当然やらなければいけないことで、いずれ報告いただけると理解をしている。(委員長)

議題2 二次廃棄物の保管状況及び今後の対応について

資料2に基づきJESCOより説明及び、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○二次廃棄物は、事業所内で出て貯まり、これをどうするか困っている。他の事業所では、外に場所を借り一部保管をしているところもある。東京の案は、環境省の認定施設を活用して処理、外部倉庫での保管がないようにしたいが、この見通しがぎりぎり、まだはっきりしていない。もしできなければ、早く地元と相談しなければいけない。とのこと。(委員長)

⇒環境省等との確認で、近日中に申請受付が始まるとのこと。何とか間合おうと思うが、今後の状況を見ながら、変化があれば、改めてこの場でも説明させていただきたい。(JESCO)

議題3 東京事業における処理推進方策の検討状況について

資料3に基づきJESCOより説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○基本的に水熱設備はそのまま、スラリー処理は東京の特徴だが、今はそれが裏目に出ているので、ある意味それを断念し、外へ出すことで水熱の能力が十分発揮できる。ただ水熱が100%機能しても、前処理で能力の違いがあり、水熱の90%分しか流さなければ10%分が無駄になる。また低濃度施設の廃止で空きスペースができるから、そこを改造に使う。とのこと。(委員長)

○「排気系統PCB濃度高々による自動停止」は東京の特徴、環境安全への配慮で導入し、この委員会でも少しやり過ぎ、大変ではと指摘していた。実際にその懸念が出て、この解消も一つの案だが、とって安全を緩めることでは困る。ただ遅れの一要因にはなっている。(委員長)

- ⇒これによる設備停止が年数回ある。ただ最初の事故を踏まえ、立地地域を守ることを第一優先に考え採用している。今後、改めて御相談させていただくかも知れない。(JESCO)
- ⇒他を改良しても、これがネックで処理が遅れるようでは、議論の必要が出てくる。(委員長)
- 水熱は世界で類を見ない規模の設備。いろいろなトラブルや達成できない能力検討は、JESCOだけでは大変だと思う。メーカーへのサポートを依頼し、努力してもらった方が良い。(委員)
- ⇒運転委託会社や関係者が連携し、協力を得ながらやっていく必要がある。(委員長)
- 作業員の血中 PCB 濃度が高くなり、大阪では解体室内作業を 4 時間から、やむなく 1～2 時間に減らしたという例がある。東京の作業時間も短くなっているのか。また、処理期間の短縮の中で、低濃度の作業が早く終わるので高濃度に向けるということは、低濃度で従事していた人間を高濃度の方に異動させるということか。(委員)
- ⇒血中 PCB の上昇、作業時間の短縮は各事業所共通、また作業場所を変える等の対策や工夫をやっていると聞いている。(委員長)
- ⇒レベル 3 (PCB が一番濃い所) は 2 時間(*)としている。また血中 PCB が高くなった人の PCB に触れない作業への異動、PCB を揮発させないため室温を下げる等をやっている。(JESCO)
- (*) 除染室は 2 時間/日、GB 内作業は現在 60 分/1 週間としている。(当初は無かった。)
- ⇒現状、高濃度と低濃度の運転会社は全く違う。また低濃度に解体処理工程はなく、職種も異なることから、作業員の転用は考えていない。(JESCO)
- 早く終わる低濃度エリアを利用し、高濃度の処理をする人数は増やすということか。(委員)
- ⇒人を増やすとか、もしくは効率的な運用で極力増やさないとか、いろいろな手段があるが、基本的には増やす方向になると考えている。(JESCO)
- ⇒設備が増え、人が少ないと作業時間も長くなる。十分配慮すること。(委員長)
- 資料 3 の JESCO 登録台数と資料 1 別添 1 の届け出済み JESCO 未登録台数や未登録使用中の違いは。またこれは今後増えるのか。また資料 1 別添 1 で、東京のコンデンサ処理が年間 4,801 台と細かい数値目標になっているが、今後は 4,800 台平均で進めるのは可能か。(委員)
- ⇒法的な届出後に JESCO 登録になる。全て登録があれば同じになるが、やはり差がある。また現状は未届けの方も少しいて、今後この登録台数は増える方向にある。コンデンサの処理目標は、今年度の第 1 四半期の実績からも 4,800 台は維持できると考えている。(JESCO)
- 資料 3 のコンデンサ類の 7 万 3,240 台と資料 1 の別添 1 の 6 万 6,198 台の違いは。(委員)
- ⇒資料 1 別添 1 は処理が終わってない残台数、資料 3 は既に処理が終わったものも含めた登録台数。(JESCO)

議題 4 その他

参考資料に関し、委員長より以下の確認と意見があった。

- 水熱の腐食調査結果は問題なし。運転トラブルでは、PCB 濃度「高々」の自動停止があり、大型トランス解体時の絶縁油漏洩は、オイルパン内で全て回収したとのことか。(委員長)
- ⇒水熱の腐食調査は、前回報告後に一回の測定があり腐食速度は前回と同じ。PCB 濃度「高々」では、2～3 日のロスが生じた。絶縁油の漏洩はその通り。(JESCO)

— 了 —